

第5回実験動物科学シンポジウムが開催されました

平成28年10月21日(金)に本学松本キャンパス・旭総合研究棟にて、第5回実験動物科学シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは、(公社)日本実験動物学会と信州実験動物研究会の共催で、会長を松本清司(本学基盤研究支援センター教授)、実行委員長を吉沢隆浩(本学基盤研究支援センター助教)、実行委員を高木優二(本学農学部准教授)や地元企業の方々が務めました。

今回のテーマは「医学研究を支える実験動物科学—サル類—」で、全国から120名以上の先生方にご参加いただきました。先日Nature誌に掲載された、本学バイオメディカル研究所・柴祐司先生のご講演を始めとして、移植免疫寛容カニクイザルやマーモセットを用いた医学研究の重要性や動物福祉について、様々な大学や企業の先生方による最先端の演題が発表され、活発な討論がなされました。

シンポジウム HP: <http://shinshuanimal.umin.ne.jp/entry2.html>

第5回実験動物科学シンポジウム
「医学研究を支える実験動物科学—サル類—」

日時: 2016年10月21日(金)、12:40~17:45(参加費無料)
会場: 信州大学松本キャンパス
旭総合研究棟9階 講義室AB

〒390-0802 長野県松本市神宮3-1-1
アクセス: 信州本郷(お城口)駅より山ノ下松本(スターニール)乗場
「信大緑田経路線」または「浅間線」で「信州大学前」

<プログラム>

1. 主催者挨拶 (12:40~13:00)
日本実験動物学会理事長 渡野 徹
信州大学 基盤研究支援センター 横田 真一

2. セッション1 移植免疫寛容カニクイザル(13:00~15:00)
座長: 柴 祐司(信州大学バイオメディカル研究所/医学部附属病院循環器内科)
中川 博司(株式会社イナリサーチ)
① MHC発現抑制カニクイザルの胎内ヒトマウスを介した遺伝子解析を中心に
横田 真一先生 東海大学医学部基礎医学系分子生命科学
② MHC発現抑制カニクイザルの医学研究への応用
小笠原 一徳先生 滋賀医科大学動物学講座
③ IPS細胞由来心臓細胞を用いた心臓再生治療: 霊長類同種移植モデルを用いた検討
柴 祐司先生 信州大学バイオメディカル研究所/医学部附属病院循環器内科
— 休憩 —

3. セッション2 実験用小動物実験マーマモセット(15:15~17:35)
座長: 高木 優二(公益財団法人 実験動物中央研究所)
本駒 敏夫(株式会社イナリサーチ)
④ 実験動物としてのマーマモセットの特性と畜産モデルへの応用
岸上 貴史先生 公益財団法人 実験動物中央研究所 マーマモセット研究部
⑤ 「心臓病」におけるマーマモセットの有用性
本駒 敏夫先生 株式会社イナリサーチ
⑥ 遺伝子改変マーマモセットを用いた脳科学
田野 実之先生 慶應義塾大学医学部
⑦ 実験動物のエンリッチメントの実例
成瀬 悠一先生 キッセイ薬品工業株式会社 安全性研究所

4. 閉会挨拶 (17:35~17:45)
信州実験動物研究会会長 松本 清司

〇懇親会 (18:30~20:30)
懇親会会場: レストラン「リュウ」(医学部附属病院外来診療棟9階)
懇親会会費: 事前申込4,000円(当日申込 4,500円)
事前申込締切: 2016年9月16日(金)PM17:00

〇シンポジウム 懇親会の参加費額は、下記よりお申込みください
信州実験動物研究会HP <http://shinshuanimal.umin.ne.jp>

主催: 信州実験動物研究会・(公社)日本実験動物学会

